

中高年齢者の労働災害を防止しましょう

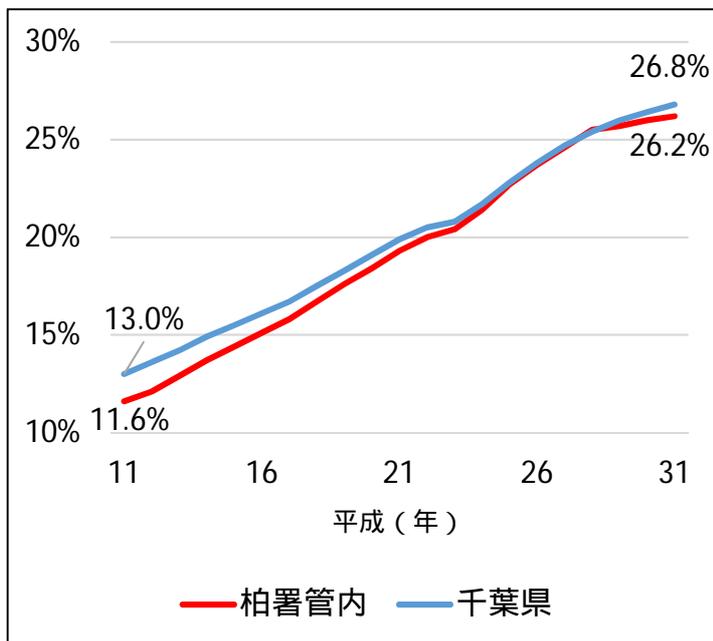
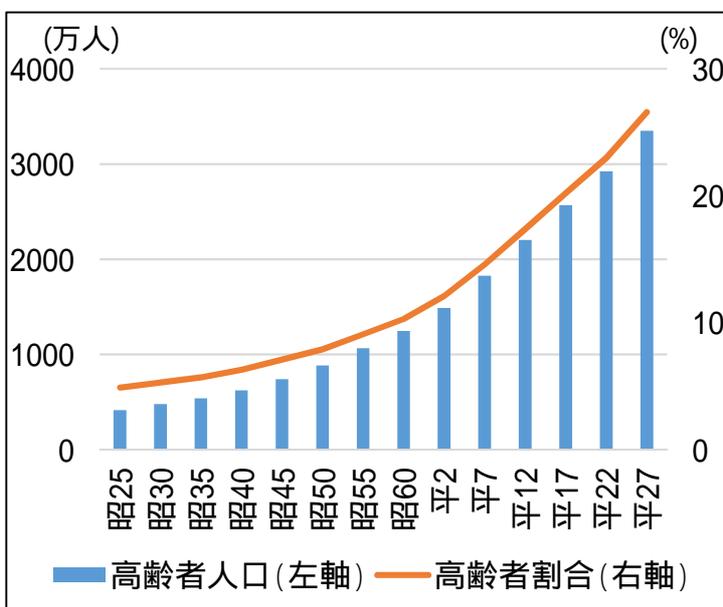
現在どの業種においても高年齢労働者は貴重な労働力として活用され、活躍をみせています。

その一方で、中高年齢者の労働災害も増加しつつあります。このパンフレットを参考に、安全な職場づくりを進めていただくようお願いいたします。

1 高齢化の進展

全国的に高齢化は急ピッチで進行している

右図のとおり、昭和25年から平成27年までの65年間で、全国の高齢者(65歳以上)の人口は約8倍になり、全人口に占める割合(高齢化率)は約5.4倍となりました。少子化も相まって、しばらくこの傾向は進むものと予想されています。



当署管内でも高齢化は進んでいる

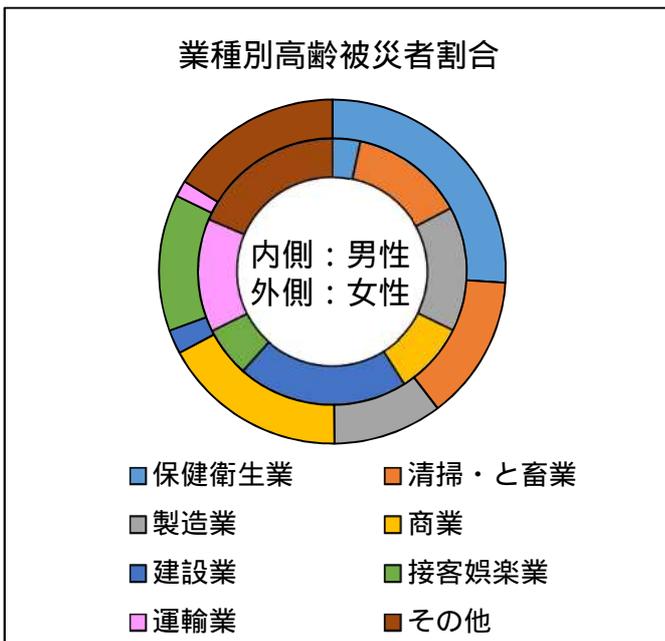
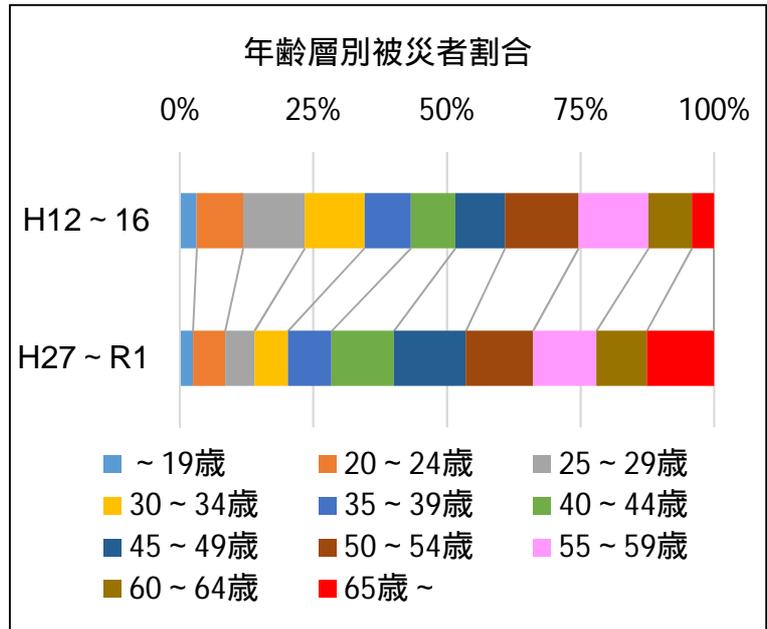
当署管内(柏、松戸、我孫子、流山、野田の5市)と千葉県全体の高齢化率は左図のとおりです。高齢化率は20年間で2倍以上の伸びとなっています。平成11年に両者の差は1.4ポイントでしたが、平成31年には0.6ポイントまで接近し、都市部においても高齢化が進展していることがわかります。

2 中高齢者の労働災害の発生状況

右図は、当署管内において労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したものにつき、平成12年からの5年間と平成27年からの5年間を比較したものです。

65歳以上の被災者(以下「高齡被災者」とします。)は平成27年からの5年間では全体の12.6%に上り、平成12年からの5年間での割合の3倍となっています。

また、45歳以上の被災者が占める割合は48.4%から59.9%に上昇しており、労働力の高齡化に伴い、被災者も高齡化していることがわかります。



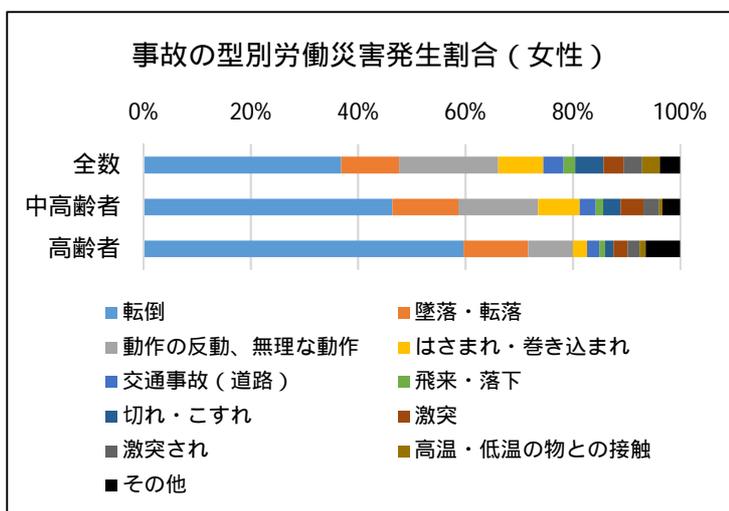
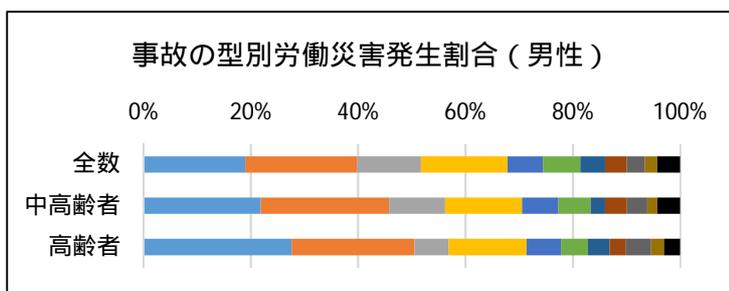
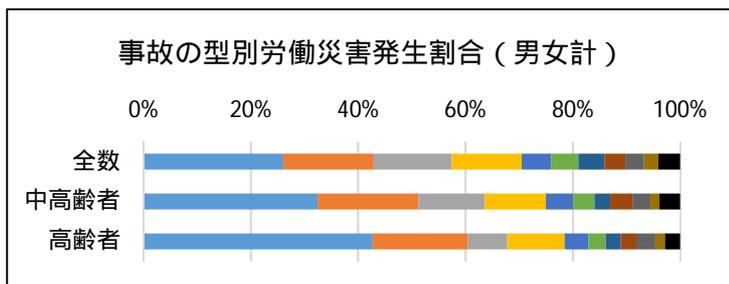
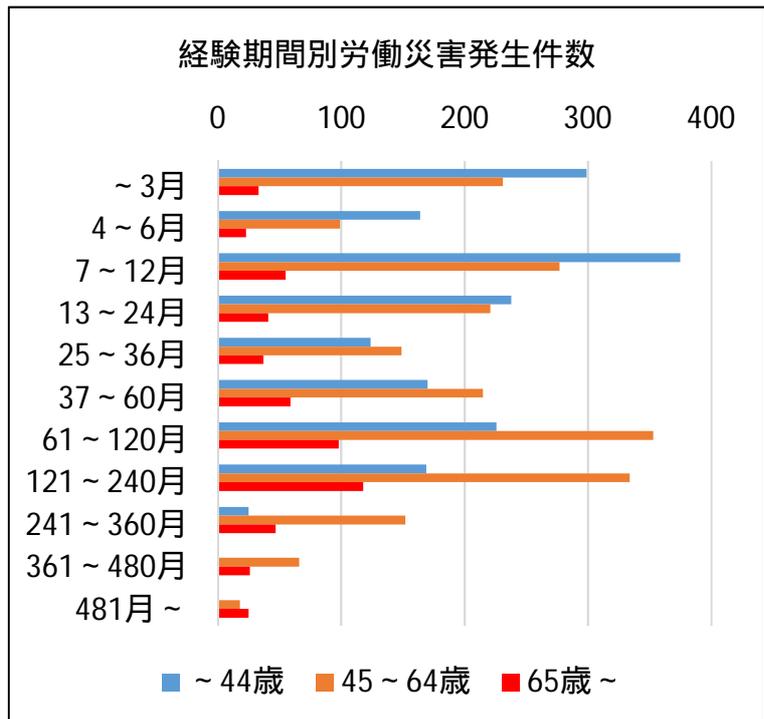
左図は、当署管内において平成27年からの5年間に労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したもののうち高齡被災者につき、男女別に業種により分類したものです。

高齡被災者に特徴的な業種としては、清掃・と畜業が挙げられます。また、災害が女性に多い業種は保健衛生業(病院、社会福祉施設)、商業(小売店等)といえます。男性は製造業、建設業に多く被災者が見られますが、この傾向は他の年齢層でもみられるものです。



右図は、当署管内において平成27年からの5年間に労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したものにつき、年齢層別にその業務の経験期間を集計したものです。44歳以下の被災者では経験1年以内の労働災害が非常に多くみられます。

一方、中高齢者の災害においては、10～20年の経験がある者でも相当数の労働災害が発生しており、作業の慣れから手順を省略するなどの安全を軽視する行動から災害が発生している可能性がうかがえます。



左図は、当署管内において平成27年からの5年間に労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したものにつき、年齢層別に事故の型（パターン）を集計したものです。

全体でも最も多い「転倒」災害は、中高齢者（45歳以上）、高齢者（65歳以上）で徐々に割合が高くなり、特に女性高齢者である被災者の約6割が転倒災害となっています。

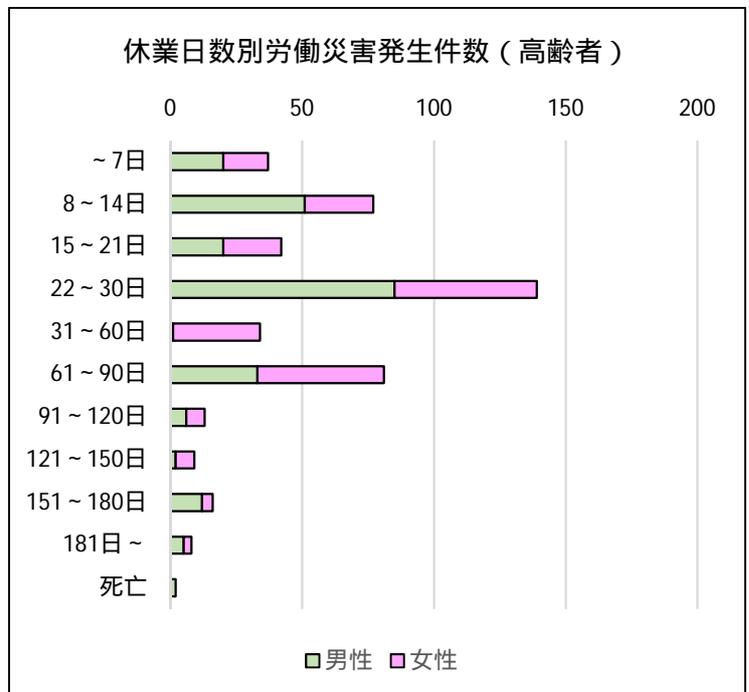
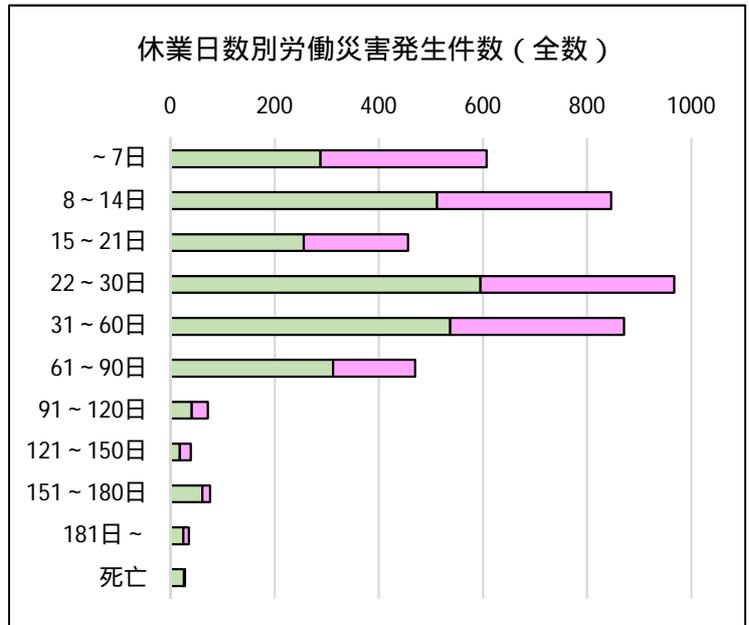
製造業等で多くみられる「はさまれ・巻き込まれ」災害については、男性の被災者で年齢層による差がみられませんが、女性の被災者では年齢が高くなるほど割合が減少しています。

また代謝が下がることから高年齢層では熱中症が起こりやすいといわれており、割合は小さいながらも「高温・低温の物との接触」災害がみられます。

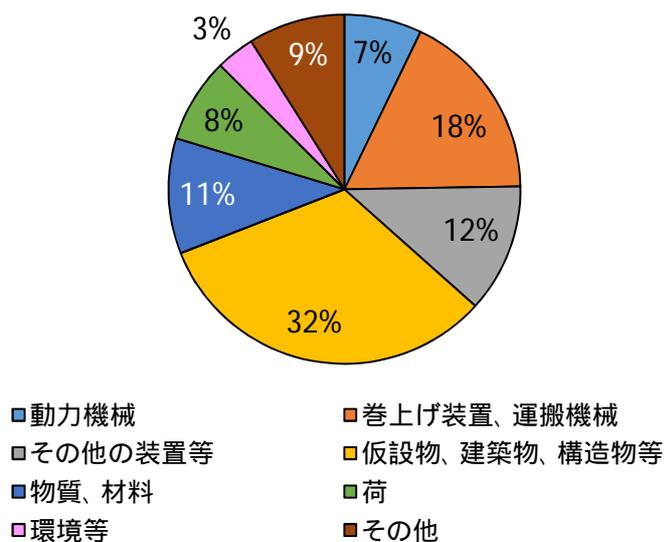
右図は、当署管内において平成27年からの5年間に労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したものに付き、休業期間を集計したものです。

このグラフで特徴的なのは、女性高齢者の被災者において休業期間が長くなる傾向です。31日以上の上の休業又は死亡の事案は、全年齢・両性において35.6%でしたが、高齢者(女性)では55.1%に上ります。中高齢者(女性)は39.2%、高齢者(男性)は40.7%と長期化傾向がみられますが、高齢者(女性)については特に割合が高くなります。

一般に、疾病や負傷からの回復は年齢が高くなるほど時間を要するといわれていますが、災害の分析からもその傾向が読み取れます。同じ「労働者1名負傷」であっても、どの程度職場を離れるかという尺度でとらえると、年齢が高い被災者であるほど職場に与える影響が大きくなるといえます。



起因物別労働災害発生割合（高齢者）



左の円グラフは、当署管内において平成27年からの5年間に労働災害で死亡したもの及び4日以上休業したもののうち被災者が高齢者であったものにつき、起因物（災害の原因となった物）別に集計したものです。

全体の約3分の1が「仮設物、建築物、構造物等」を起因物としており、建物の部屋、廊下、階段等において災害が起っています。

その下の表は、円グラフで「仮設物、建築物、構造物等」とされた災害のうち、事故の型「転倒」の災害が占める割合を示しています。転倒災害においては男性より女性の割合が高く、さらに年齢層が高くなるほど発生割合が高くなる傾向がみられます。

	計	男性	女性
全年齢	48.7%	38.1%	58.9%
中高齢者	53.1%	40.7%	62.2%
高齢者	60.4%	48.6%	68.5%

以上の分析から、高齢者の労働災害には次の特徴があるといえます。

男性は製造業や建設業、女性は商業や保健衛生業で災害が多い

経験豊富な労働者であっても災害が発生する場合がある

部屋、廊下等での転倒災害が多く発生している

災害が発生すると休業期間が長くなる傾向がある

災害防止のために検討すべきことは何でしょうか

3 中高年齢者の労働災害の防止対策

厚生労働省では、労働災害防止計画を5年ごとに策定しており、現在は平成30年度を初年度とする第13次計画の期間中です。

第13次労働災害防止計画(13次防)では全体的な目標として、死亡者数を15%以上、死傷災害を5%以上減少させることを挙げています。

重点事項のひとつとして「就業構造の変化及び働き方の多様化に対応した対策」があり、その内容に高年齢労働者対策が含まれています。

柏監督署管内の労働災害の被災者のうち、過半数は45歳以上の中高年齢者



中高年齢者の労働災害防止は、全体的な労働災害の減少に大きく寄与する可能性

厚生労働省「労働災害防止計画」



厚生労働省と関連団体では、高年齢労働者の安全確保について先進的な取組を推進している企業の事例を公表しています。

他の企業の取組を参考に、自社へ取り入れられるものは積極的に取り込んで、中高年齢者の活躍できる職場づくりを目指しましょう！

厚生労働省・中央労働災害防止協会
「高年齢労働者の活躍促進のための安全衛生対策
-先進企業の取組事例集-」



各社において、具体的に高年齢労働者の安全衛生を確保するため取り組むポイントをまとめた「エイジアクション100」が厚生労働省の関連団体から発表されています。

この中に、100のチェックポイントが挙げられているので、まずは各社の実情を把握するために活用してみましょう。

100の「エイジアクション」（抜粋）		
8	階段・通路の移動が安全にできるように十分な明るさ（照度）を確保している。	
50	（熱中症対策として） 自覚症状の有無に関わらず、定期的に水分・塩分を摂取させている。	
63	書面・ディスプレイ（表示画面）、掲示物等の文字の大きさや色合いは、見やすくなるように工夫している。	

厚生労働省・中央労働災害防止協会
「エイジアクション100～生涯現役社会の実現につながる高年齢労働者の安全と健康確保のための職場改善に向けて～」



中高年齢者の労働災害防止のために全業種で取り組むべきポイントのひとつに、転倒災害対策があります。

厚生労働省では「STOP！転倒災害プロジェクト」を展開し、各事業場において転倒災害を防止するための取組を推奨しています。

厚生労働省
「STOP！転倒災害プロジェクト」



厚生労働省では以上の取組を総合したものとして、「エイジフレンドリーガイドライン」(*)を定め、周知に努めています。今後は、このガイドラインに沿ったコンサルティング事業を行うほか、ガイドラインに沿った取組を行う中小企業事業場に対する助成を予定しています。

(*) 「高齢者の特性を考慮した」を意味する言葉で、国際機関や欧米の労働安全衛生機関で使用されています。

厚生労働省
「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)



このリーフレットに関するお問い合わせは
柏労働基準監督署 第三方面・安全衛生課 まで
(04 - 7163 - 0246、0247)